

水稲新品種「サツマモチ」について

岡田正憲・西山 寿・本村弘美・甲斐俊二郎
(九州農業試験場)

OKADA, M., NISHIYAMA, H., MOTOMURA, H. and KAI, S.

A New Variety of Paddy Rice Plant, "Satumamochi"

かねて配付試作中の水稲西海糯81号は昭和43年から鹿児島県で奨励品種に採用され、通称名を「サツマモチ」として、普及に移されたので、育成経過ならびに特性その他の概要をのべて参考に供したい。本品種の育成に直接従事した職員は筆者等および藤井啓史・今井隆典であるが、関係各県農業試験場・支場・分場の係官のご協力によるところが大きく、ここに深甚の謝意を表したい。

来歴ならびに育成経過

サツマモチは昭和29年、農林省九州農業試験場（筑後市）で、肥後糯4号を母、ホザカエを父として人工交配を行ない、その後も同場で系統育種法により育成されたものである。

特性検定については昭和34年度より、系統適応性の検定については同35年度より開始されたが、その成績良好であり、昭和37年度 F₈より西海糯81号の系統名で関係県に配付して地方的適否が検討されたもので、昭和43年度 F₁₄にあたる。昭和43年6月に水稲農林糯196号として登録され、通称名をサツマモチと命名された。

特性の概要

1. 形態的特性 稈長は農林糯5号と備南糯の中間程度で、穂長の長い偏穂重中間型の糯種である。稈の太さは中位で、芒は無く、稈先は紅で、稈色は黄白である。粒着はやや密で脱粒性は易である。玄米は中形中粒で、ろう白色を呈し、品質は中の中である。餅にした場合に肌が美しく、食味も良好である。

2. 生態的特性 出穂・成熟期ともに神選糯程度であり、九州北半では極晩生、南九州では晩生にあたる。耐倒伏性は中位であるが備南糯や農林糯5号より強い。穂首いもち病と紋枯病には強く、葉いもち病と白葉枯病には中位であり、安全性はかなり整

っている。生産力はこの種の草型としては、かなり高く、かつ安定している。

第1表 一般特性

形質	品種名	(1) 農林糯5号		(2) 備南糯		(3) サツマモチ		(4) 富田糯		(5) 三州糯	
		サツマモチ	農林糯5号	備南糯	サツマモチ	備南糯	サツマモチ	富田糯	三州糯	富田糯	三州糯
熟期別	極晩生	晩生の早	中生	晩生	中生	晩生	中生	晩生	中生	晩生	中生
草型	偏穂重	偏穂重	偏穂重	偏穂重	偏穂重	偏穂重	偏穂重	偏穂重	偏穂重	偏穂重	偏穂重
出穂期(月)	9.16	9.11	9.8	9.10	9.7	9.9	9.7	9.9	9.7	9.9	9.9
成熟期(%)	11.9	11.4	11.2	10.26	10.21	10.25	10.21	10.25	10.21	10.25	10.25
稈長(cm)	88	94	85	96	97	89	96	97	97	89	89
穂長(m)	21.4	21.0	18.8	21.8	19.8	19.4	19.8	19.4	19.8	19.4	19.4
穂数(㎡当り本)	299	295	559	324	342	276	342	342	342	276	276
芒の有無・長短	無	無	少・短	無	無	多・長	無	無	無	多・長	多・長
稈先色	紅	紅	白	紅	白	紅	白	白	白	紅	紅
稈色	黄白	黄白	黄白	黄白	黄白	黄白	黄白	黄白	黄白	黄白	黄白
脱粒性	易	易	中	易	中	難	中	中	中	難	難
耐倒伏性	中	弱	やや弱	中	中	やや強	中	中	やや弱	やや強	やや強
耐病性	葉いもち病	中	やや弱	中	中	強	強	強	強	強	強
	穂首いもち病	強	やや強	やや強	強	強	強	強	強	強	やや弱
	白葉枯病	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
紋枯病	強	中	中	強	一	一	強	一	一	一	一
a 当り玄米重(%)	45.3	41.9	44.7	46.6	44.7	40.2	46.6	44.7	46.6	40.2	40.2
玄米千粒重(g)	22.8	21.9	25.0	21.2	20.0	20.2	21.2	20.0	21.2	20.2	20.2
玄米品質	中の中	中の上	中の上	上の中	中の上	中の中	上の中	中の上	中の上	中の中	中の中
調査地	九州農試					鹿児島農試					
調査年次	昭34~38					昭37~40					

適地および奨励品種採用県

南九州特に鹿児島県下の平坦部で、三州糯の栽培地帯において、これにかわるものとして入りうるものと思われる。また、富田糯にも一部代わりうるであろう。

昭和43年度から鹿児島県で奨励品種に採用されることになった。

栽培上の注意

倒伏にはあまり強くないので、極端な多肥栽培や密植をしないこと。熟期がおそいので、鹿児島県では主として中・南部の平坦地帯に普及することが望ましく、県北部にはあまり適しない。

命名の由来

薩摩の国すなわち鹿児島県下に適した糯品種であることにちなむ。